

# VI

## 地域別の取組方向

県内各地域の地域づくりについて、尾張地域、西三河地域、東三河地域の3地域に分け、広域的な視点や、県内外の地域間連携などの視点も踏まえつつ、それぞれの地域の将来像や取組方向を示す。

県内各地域の特色を踏まえた地域づくり

尾張地域

西三河地域

東三河地域

## 県内各地域の特色を踏まえた地域づくり

多核連携型の圏域構造※を持つ本県においては、人口構造、産業構造、交流基盤などの状況が地域によって異なっており、本編で示した「2040年頃の社会経済の展望」も、それぞれ地域特性に応じた特徴を持つものと考えられる。

そこで、この「地域別の取組方向」では、木曾川・矢作川・豊川の3つの河川を軸として、歴史、文化、生活、産業経済等の強い結びつきを持つ、尾張・西三河・東三河の3つの地域ごとに、各地域が持つ特色や、社会経済の展望を踏まえながら、「めざすべき将来像」を示していく。

さらに、各地域の「めざすべき将来像」の実現に向けては、地域の潜在力や可能性を最大限高めるような政策を総合的に展開していく必要があるため、県民生活、産業経済、広域交通・交流、防災・環境といった分野ごとに「地域づくりの方向性」を示した上で、「主な政策」を示していく。

なお、少子高齢化や人口減少が大きく進んでいる三河山間地域や三河湾の離島については、豊かな自然を始め魅力的な観光資源を有するとともに、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の多面にわたる機能を有している。こうした地域を支え、活性化していく取組についても示していく。

「地域別の取組方向」では、基礎的な住民サービスなどに係る取組については、引き続き各市町村が推進する前提のもと、地域内の複数の市町村や地域全体に及ぶような課題、当該地域の特徴的な課題などを中心に取り上げる。

※ 多核連携型の圏域構造：大都市名古屋を中心に、適度に分散した各主要都市が役割を分担しつつ連携している圏域構造。



# 尾張地域

## 1 地域の特色と将来展望

### 人口構造

尾張地域は、県全体の約7割の人々が暮らす地域であり、都心部への交通利便性が高い居住地域が形成されている。また、外国人県民が増加しており、様々な国籍の住民が、多様な職業に就いている。

将来、地域全体としては、人口減少・高齢化がゆるやかに進むと見込まれる中、グローバル化の進展による外国人県民の更なる増加など、住民の多様性が増していくことが想定される。

県内で最も人口が多く、国籍など様々なバックグラウンドを持つ住民が暮らす地域として、多様な人材が活躍できる環境をつくっていくとともに、交通利便性を活かしながら、暮らしやすいまちづくりを進めていく必要がある。

### 産業構造

尾張地域は、大都市である名古屋市を中心に、卸売・小売業等の第3次産業が集積しており、都市型産業である情報通信業も一定の集積が見られる。また、古くからこの地域の発展を支えてきた繊維産業や窯業、醸造業などの地場産業から、航空宇宙関連、鉄鋼、工作機械、自動車関連に至るまで、様々な製造業が展開されている。さらに、米や野菜、果樹、花き、畜産などの農業や、底びき網や船びき網、ノリ養殖、キンギョ養殖など水産業の生産地域として発展してきた地域でもある。

このように、地域内には、第1次産業から第3次産業までの多様な産業が共存している。加えて、リニア中央新幹線開業により、全国との様々な人流が活発化するものと見込まれる。

地域で共存する多様な産業の活力と、地域内外の多様な人材の交流を活かすことにより、イノベーションを創出するポテンシャルを発揮していく必要がある。

### 交流基盤

尾張地域は、中部国際空港、県営名古屋空港、名古屋港などの充実した交流基盤を擁し、発達した鉄道網や道路網が国土の東西軸や名古屋を中心とする放射状・環状のネットワークを形成するなど、陸・海・空の広域交通の要衝となっている。また、大学や研究機関、文化・芸術施設、観光・コンベンション施設などの多様な機能が集積している。

今後、ジブリパークやアジア競技大会といった、国内外からの大きな集客が見込まれる施設開業やイベント開催が予定されている。さらに、リニア中央新幹線の開業により、名古屋駅を起点とした2時間圏人口が国内最大規模となるものと見込まれている。

その効果を地域内はもとより、大都市圏全体に波及させていくためには、交流基盤の一層の充実や、大規模イベントの積極的な誘致・開催などにより、交流人口の一層の増加を図っていく必要がある。

## 自然環境

尾張地域には、西部を中心に日本最大の海拔ゼロメートル地帯が広がっており、局地的な豪雨などによる河川の氾濫や市街地の浸水被害が頻発している。南海トラフ地震の被害予測では、知多半島など沿岸部を中心に、甚大な津波被害が見込まれている。

こうした地域特性を踏まえながら、激甚化していく風水害や、南海トラフ地震への対策を進めるなど、安全・安心な地域づくりに取り組んでいく必要がある。

尾張地域は、木曾川の緑豊かな水辺空間や三河湾の島々、多種多様な生物が生息・生育している伊勢湾、名古屋東部丘陵を始めとした豊かな里地里山など、大都市地域でありながら豊かな自然環境を有している。経済・社会・環境が調和した地域づくりに向けて、こうした自然環境の保全・回復を進めていく必要がある。また、当地域にある環境学習施設を活用した人材育成や、多様な人材の交流を活かした新たな循環ビジネスの創出などの役割を果たすことが求められる。

## 2 めざすべき将来像と地域づくりの方向性

尾張地域は、地域の多様な産業や人材と、国内外との活発な交流により生み出される活力を、中京大都市圏全体に波及させる役割が求められる。また、リニア中央新幹線全線開業後には、スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏の中核となることをめざす。

**多様な産業・人材の活発な交流を活かし、  
スーパー・メガリージョンのセンターを担う  
大都市圏の中核となる地域**

- ① 多様な人材が活躍できる暮らしやすい地域
- ② 幅広い産業に活力があり、垣根を越えてイノベーションを創出する地域
- ③ 多様な人材・産業・地域がつながり、交流する地域
- ④ 災害に強く、自然と調和した地域

### 3 地域づくりの方向性と主な政策

#### 1 多様な人材が活躍できる暮らしやすい地域

##### ◆多様な人材の就労支援

- 愛知県産業労働センターのあいち労働総合支援フロアにおいて、幅広く労働者及び事業者からの相談に対応するとともに、子育て女性や障害者等の就労支援を図る。
- 中小企業向けに外国人雇用に関するセミナーを開催するとともに、定住外国人向けの就労支援の実施などにより、外国人雇用を促進する。
- テレワークの普及・導入促進や、働き方改革の街頭啓発活動等を実施し、地域の中小企業等の働き方改革を促進する。

##### ◆次世代のグローバル人材・理数工学人材等を育成する教育の推進

- あいちグローバルハイスクールに指定した旭丘高校における取組の成果を共有し、将来、国際的に活躍できるグローバル人材を育成する。
- 瑞陵高校への理数科の設置などにより、モノづくり技術の研究者等となる理数系人材を育成する。
- 愛知総合工科高校への理工科、名南工業高校等へのIT工学科、春日井工業高校等へのロボット工学科や生活コースの設置を始め、工業高校等に学科・コースを新設するとともに、「工業高校」等を「工科高校」に改称し、科学的にモノづくりを理解し、技術革新にも対応できる若者の育成をめざす。
- 城北つばさ高校を、定時制キャリア教育モデル推進校に指定し、生徒の社会的・職業的な自立を促すための研究を進める。

##### ◆元気な高齢者の活躍促進と、健康長寿に資する取組

- 市町村と連携して、就労・生きがいづくり、多世代交流、移動支援に関するモデル事業を実施するなど、高齢者の社会参加を促進する。
- あいちオレンジタウン構想のもと、国立長寿医療研究センターとあいち健康プラザとの共同研究を始めとする産学官連携による認知症予防の研究を推進する。
- あいち健康の森とその周辺地区において健康づくりの取組を推進し、地元自治体のウェルネスバレー構想と連携した健康長寿の一大拠点の形成をめざす。

## ◆障害のある人や外国人県民への支援体制等の充実

- 知多地区から聾学校への長時間通学を解消するため、東浦高校敷地内に聾学校分校を設置する。また、港特別支援学校への長時間通学の解消に向け、通学環境の改善を検討する。
- 愛知県医療療育総合センターにおいて、地域の重症心身障害児者施設と連携し、医療・療育支援の充実を図る。また、障害者福祉減税基金を活用して、知多半島における民間法人による重症心身障害児者施設の整備を進める。
- 多文化子育てサロンの開催による外国人親子が日本で安心して子育てできる環境整備や、地域日本語教育コーディネーターによる地域の日本語教室への指導・助言など、多文化共生社会づくりに向けた取組を推進する。

## ◆快適な暮らしを支える基盤整備と、離島の暮らしを支える取組

- 地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋岡崎線、名古屋江南線、名古屋津島線、名古屋半田線を始めとする名古屋からの放射状道路や、都市計画道路の北尾張中央道、瀬戸大府東海線、名古屋第3環状線を始めとする環状道路等の整備を推進する。さらに、新濃尾大橋(仮称)を始めとする岐阜との県境にかかる橋梁の整備や、新清洲駅付近、荻安賀駅付近における鉄道の高架化による踏切除却等を推進する。
- 安全性の確保に向けたJR金山駅などにおけるホームドア設置への支援、バス路線の維持や東部丘陵線(リニモ)の利用促進など、公共交通の確保・充実を図る。
- JR春日井駅南東地区第一種市街地再開発事業への支援など、中心市街地における賑わいづくりを図るとともに、春日井西部第一・第二地区、JR半田駅前地区、東郷中央地区など、鉄道駅を始めとした交通拠点を中心に、市街地再開発や土地区画整理等を進める。
- 大高緑地、小幡緑地などの都市公園や、森林公園における民間活力の導入、地域の特性を活かした賑わいづくりに向けた国営木曾三川公園の整備等により、魅力ある公園づくりを進める。
- へき地診療所・へき地医療拠点病院への支援や、へき地医療機関における医師や看護師の確保などにより、離島のへき地保健医療対策を推進する。また、オンライン服薬指導の規制緩和等により、離島における医療の充実を図る。
- 日間賀島、篠島の魅力を情報発信するなど、離島に関心を持ち、ファン・サポーターとなる人(関係人口)を創出するための取組を推進する。

## 2 幅広い産業に活力があり、垣根を越えてイノベーションを創出する地域

### ◆スタートアップ支援を始めとする多様な産業のイノベーション促進

- ステーションAiを通じてスタートアップ支援を推進し、愛知県独自の「モノづくり融合型」スタートアップ・エコシステムの形成をめざす。
- あいちサービスロボット実用化支援センターによる医療や介護等のサービスロボット実用化に向けた支援など、ロボット産業の育成・振興を図る。
- あいち・なごやエアロスペースコンソーシアムにおいて、航空宇宙産業の販路開拓支援や人材育成支援など、航空宇宙産業の振興を図る。また、あいち航空ミュージアムを活用して、次代の航空機産業を担う人材育成を推進する。
- 自動運転の実証実験等を通じた新しいモビリティサービスの導入促進とともに、水素ステーションの整備促進、高度部材の開発支援等、次世代自動車関連産業の育成・振興を図る。
- 次世代を担う産業等の集積に向けて、企業立地を推進するとともに、企業ニーズ等を踏まえた新たな企業用地の開発を市町村と連携して進める。
- 多様な産業構造の構築や、県内産業の活性化を図るため、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会(GNIC)、ジェットロ等との連携による外国企業の誘致を促進する。

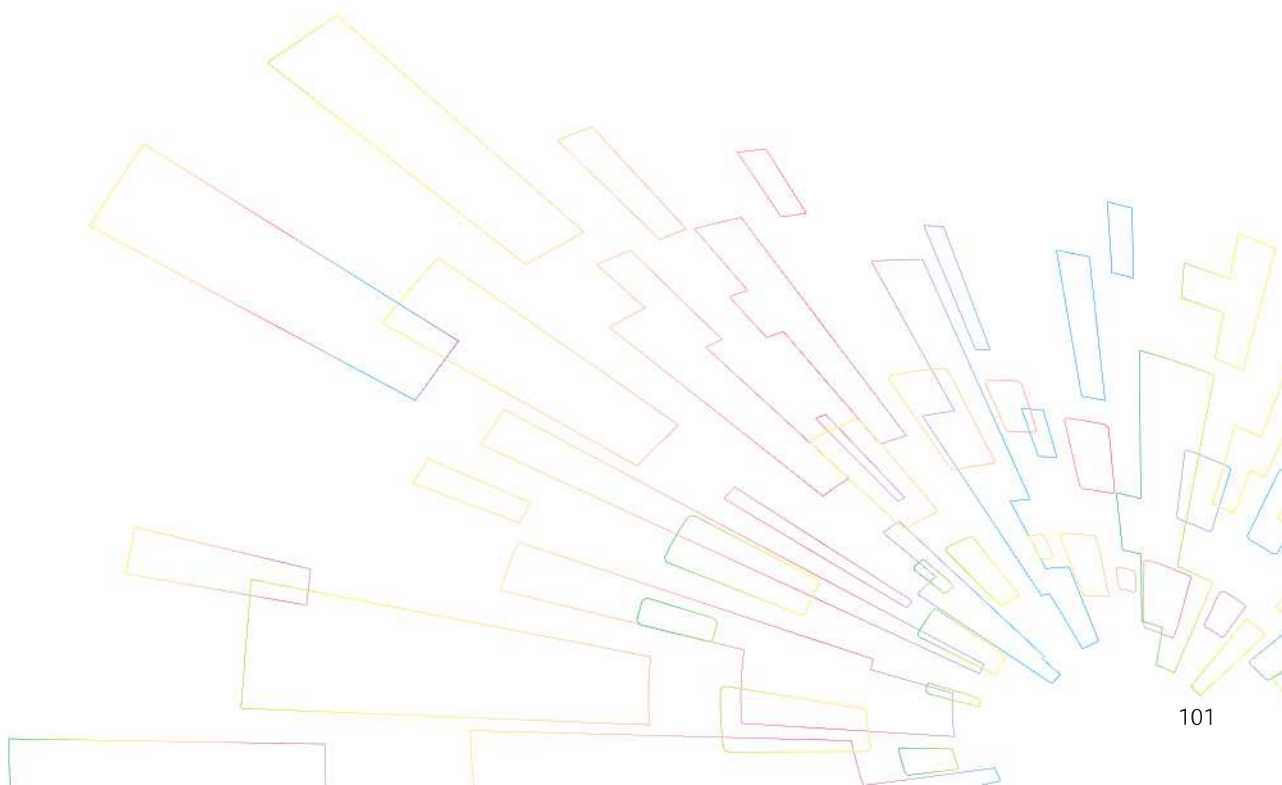
### ◆窯業、繊維産業等の産業振興、商店街の活性化

- あいち産業科学技術総合センター(常滑窯業試験場、瀬戸窯業試験場、食品工業技術センター、尾張繊維技術センター)における技術支援等により、地場産業の振興を図る。
- 愛知県産業労働センターに拠点を置く、(公財)あいち産業振興機構と連携して、中小企業の新事業展開・経営革新や創業、海外展開等を一元的に支援する。
- 市町村や商店街組合が行う商店街の活性化に向けた取組を支援する。



## ◆ 農業・水産業の生産力強化、持続可能な発展

- 農業総合試験場(本場)においてスマート農業の研究開発・普及拡大に取り組むとともに、施設整備等への支援、水田の排水改良、担い手への農地集積・集約化、農道保全等により、農業の生産性向上、水田への高収益作物導入、農産物の品質確保を図る。
- 名古屋コーチンの種鶏を供給する、畜産総合センター種鶏場の移転整備により、供給体制強化を図るとともに、名古屋コーチンに対する消費者の理解と関心を高める取組を推進する。
- 水産試験場(漁業生産研究所、内水面漁業研究所弥富指導所)における、アサリ、ノリ等の増養殖技術の開発・普及やイワシ類等資源の調査研究、キンギョの品種改良など、水産業の振興を図る。
- 農起業支援センター(尾張、海部、知多)において、農業の担い手確保を推進する。
- 6次産業化サポートセンターにおいて6次産業化の取組を支援する。また、あいち産業科学技術総合センターや農業総合試験場等と連携して行う事業を支援するなど、農商工連携を推進する。



### 3 多様な人材・産業・地域がつながり、交流する地域

#### ◆国際交流拠点としての都市機能の向上

- 様々な交通の結節点となる名古屋駅のスーパーターミナル化の実現に向けて、民間事業者や名古屋市等と連携して取り組む。
- 名古屋駅への高速道路アクセスの向上と、名古屋高速道路ネットワーク全体の充実に向けて、黄金出入口、新洲崎JCT出入口、栄出入口、丸田町JCT西渡り線・南渡り線等の整備に向けた取組を推進する。
- 名古屋駅地区、栄地区など都心部の再開発等を促進し、ビジネス交流機能、業務機能、商業・娯楽・文化機能など様々な都市機能の集積に向けた取組を促進する。
- ハイレベルな国際会議開催や海外富裕層旅行者等誘致に向けて、高級ホテル立地を促進する。
- 中部国際空港やその周辺エリアにおいて、最先端の技術・サービスを積極的に導入し、イノベーションの創出を図るスーパーシティ化や、MICEを核とした国際観光都市の実現をめざした、魅力ある機能整備の具体化に向けた検討を進める。

#### ◆陸・海・空の広域交通基盤の強化

- 中部国際空港において、エアポートセールスや利用促進に取り組むとともに、二本目滑走路の整備を始めとする機能強化に向けて取り組む。また、県営名古屋空港における通勤航空・ビジネス機の拠点化を推進する。
- 名古屋港において、船舶の大型化への対応、完成自動車取扱機能の強化に向けた岸壁の整備や保管用地の造成に取り組むとともに、ICTを活用してコンテナターミナルの効率性向上をめざす。また、衣浦港において、増大するバルク貨物へ対応するための保管用地造成や船舶の大型化へ対応する岸壁の整備に取り組む。
- 中部国際空港と新東名高速道路(伊勢湾岸自動車道)を直結するとともに、名古屋高速道路を經由して名古屋駅を結ぶ西知多道路の早期全線供用に向けた取組を推進する。
- 岐阜圏域、北陸地方への広域的な人流・物流の円滑化に資するとともに周辺地域の混雑を緩和する国道41号の6車線化整備の促進や、名岐道路の早期実現に向けた取組を推進する。また、名神高速道路と伊勢湾岸自動車道を結び、名古屋港へのアクセス向上が期待できる一宮西港道路について、計画の早期具体化に向けた取組を推進する。
- 中部国際空港から三河方面への直結性を高めるとともに、尾張地域と西三河地域の連携強化の基盤となる名古屋三河道路について、計画の早期具体化に向けた取組を推進する。

- 東名高速道路の東郷パーキングエリアでの東郷スマートインターチェンジ(仮称)の整備を促進し、物流の円滑化による生産性の向上や観光地へのアクセス向上により地域の活性化を図る。

## ◆ジブリパークや歴史・文化等を活かした観光振興

- 愛・地球博記念公園において、ジブリパークの整備に取り組むとともに、公園施設の整備・改修、駐車場の増設や周辺道路の渋滞緩和対策を推進する。また、リニモ沿線5市と連携して、ジブリパーク開業のインパクトを活用した地域活性化に取り組む。
- 国際芸術祭について、新たな組織体制のもとで開催準備を進めるとともに、継続して開催していく。また、愛知芸術文化センターでの舞台芸術公演・美術展や、愛知県陶磁美術館での企画展等の開催により、集客力を高める。
- 名古屋城、犬山城などの城郭・城址を活用した「お城観光」、東海道や美濃路といった歴史街道を活用した「街道観光」について、関係市町・団体と連携して取り組むとともに、「武将のふるさと愛知」の魅力発信など、地域の歴史・文化を活用した観光客の誘致を図る。また、あいち朝日遺跡ミュージアムなどを活かした古代ロマンの創生・発信に取り組む。
- 先進的なモノづくり産業や、繊維産業、窯業、醸造業といった地場産業、尾張七宝などの伝統的工芸品等を活かした産業観光を推進する。
- Aichi Sky Expoにおいて新たな展示会等の需要創造を図るとともに、愛知・名古屋MICE推進協議会による地域一丸となったMICE誘致の取組を推進する。
- 尾張津島天王祭、犬山祭を始め、愛知を代表する伝統文化である山車まつりの保存・継承を図るとともに、その魅力を地域一丸となって国内外に発信する。

## ◆大規模スポーツ大会の開催・招致・育成

- アジア競技大会開催に向けて、開催準備や愛知県新体育館整備などを進める。また、名古屋市港区から弥富市に移転予定の名古屋競馬場の敷地をメイン選手村として利用するだけでなく、大会後のレガシーとして有効活用されるよう、大会を契機としたまちづくりを進める。
- FIA世界ラリー選手権ラリージャパン、マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知、アイアンマン70.3セントレア 知多半島ジャパンなどの全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成により、地域活性化を推進する。

#### 4 災害に強く、自然と調和した地域

##### ◆全国最大の海拔ゼロメートル地帯や半島地域・丘陵地など、地域特性を踏まえた地域強靱化

- 社会インフラや建築物の耐震性強化や津波対策、国営総合農地防災事業新濃尾地区等による基幹農業水利施設の更新や、農業用の排水機場やため池などの農業水利施設の適正な管理、保全、改修等の農地防災対策など、総合的な防災・減災対策を推進する。
- 災害時の救助活動や物資輸送などを支える緊急輸送道路について、都市計画道路の名古屋江南線、名古屋津島線の整備、橋梁の耐震化、無電柱化などを推進し、緊急輸送道路ネットワークの構築を図る。
- 名古屋港や衣浦港の防災・減災機能強化を図るとともに、港湾BCPやフェーズ別高潮・暴風対応計画等に基づき、災害発生時の初期対応から早期復旧までの効果的な対策の推進を図る。
- 大規模災害時のゼロメートル地帯における浸水被害に備え、旧永和荘跡地(愛西市)に広域的な防災活動拠点を整備するとともに、木曾三川下流域における更なる防災活動拠点の整備に向けて、検討を進める。
- 大規模災害時に、全国からの応援人員や物資等を円滑に受け入れ、被災地域の防災拠点に迅速かつ的確に供給するため、県営名古屋空港北西部(豊山町・青山地区)において、後方支援を担う新たな防災拠点の整備に向けた取組を推進する。
- 日光川流域において、日光川2号放水路の整備を含めた河道整備のほか、国営施設機能保全事業尾張西部地区による河口部排水施設の耐震・機能保全対策、内水排除を担う基幹的な排水機場や排水路等の整備を進め、ゼロメートル地帯の浸水対策の強化を図る。
- 市街地等の浸水被害の軽減を図るため、新川流域における総合的な治水対策を推進するとともに、庄内川水系、日光川水系、知多半島の二級河川等の河川改修や河川管理施設、海岸保全施設の地震津波対策、老朽化対策を進め、治水安全度の向上や施設の適切な維持管理を推進する。
- 豪雨の発生が増加傾向にある中、土砂災害などの発生リスクの増大を踏まえ、治山施設や土砂災害防止施設の整備及び老朽化対策を進め、土砂災害被害の軽減を図る。
- 大規模かつ広域的な災害が発生した際、災害対策活動の核となり、広域的な総合調整などを担う、基幹的広域防災拠点の整備を促進する。
- 愛知県災害対策本部の各方面本部(尾張、海部、知多)との連携強化や、市町村間の広域防災体制の構築に対する協力など、自治体相互の連携による防災力の強化を図る。また、防災マップの作成や防災リーダーの育成等、市町村が取り組む防災対策を支援するとともに、市町村が行う消防団加入促進の取組を支援するなど、地域防災力の充実・強化を図る。

- BCP策定マニュアルの提供や、BCPセミナーの開催などにより、大規模災害時等における中小企業・小規模事業者等の業務継続・再開に向けた取組を支援する。
- 県内市町村はもとより、岐阜県及び三重県とも連携し、県境を越えた木曾三川下流域等の近隣自治体間による連携構築を図り、ゼロメートル地帯の防災対策を推進する。

#### ◆再生可能エネルギーなど環境にやさしい社会システムの構築

- 知多市・豊田市再エネ利用低炭素水素プロジェクトや、鈴木商館セントレア貨物地区水素充填所を始め、低炭素水素認証制度に基づいた認証・情報発信により、低炭素水素サプライチェーンの事業化を推進する。
- 充電インフラや水素ステーションの整備を促進するなど、環境性能に優れたEV・PHV・FCVを始めとする次世代自動車の普及拡大に向けた取組を進める。
- 産学行政の協働拠点である、あいち資源循環推進センターにおいて、循環ビジネスの振興に取り組むなど、循環型社会の形成に向けた取組を推進する。
- あいち環境学習プラザでの体験型展示やZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)設備見学、もりの学舎における自然体験プログラムなど、特色ある環境学習を通して、持続可能な未来のあいちの担い手を育成する「人づくり」を推進する。

#### ◆伊勢湾を始めとする自然環境の保全・回復

- 流域下水道(境川、衣浦西部、五条川左岸、日光川上流、五条川右岸、新川東部、日光川下流、新川西部)における、管渠や処理場の整備、農業集落排水処理施設の整備を推進する。また、伊勢湾再生行動計画など、伊勢湾における海域環境の再生を推進する。
- 生態系ネットワーク協議会(知多半島、東部丘陵、尾張北部、尾張西部)の取組を始め、地域との連携のもと、生態系ネットワークの形成に向けた取組を推進する。
- 水田の用水管理や地域の排水管理のために設置されているゲート類の点検・補修、小学校と連携して行う農業用ため池の池干しなど、地域が共同で行う活動を支援し、農地の保全や多面的機能の持続的発揮に向けた取組を推進する。

# 西三河地域

## 1 地域の特色と将来展望

### 人口構造

西三河地域は、県全体の約2割の人々が暮らす地域で、鉄道や幹線道路に沿って市街地が形成されており、地域の北部や東部は山村地域となっている。また、男性人口に比べて女性人口が少ないという特徴があり、特に20～30歳代で顕著となっている。さらに、外国人県民が増加してきており、多くの外国人が製造業に就いている。

今後、2040年頃までは現在の人口規模が維持され、高齢化は進むものの、比較的若い人口構造を維持する地域と見込まれている。

地域で盛んな製造業を含む、様々な職場において、性別等に関わらず全員が活躍できる環境づくりを進めるとともに、暮らしやすいまちづくりを進めていく必要がある。

### 産業構造

西三河地域は、自動車メーカーの本社や研究開発・生産拠点のほか、生産用機器や電気機器、プラスチック製品、金属製品など多種多様なサプライヤー企業が数多く立地する自動車産業の世界的な拠点であり、本県の製造品出荷額等の5割以上を稼ぎ出す、モノづくり愛知を牽引する地域である。また、米、小麦、大豆といった穀物類や、野菜、果樹、てん茶、花き、畜産など、農業も盛んな地域であり、山間地域では、古くから植林が盛んで、豊富な森林資源を背景とした林業が行われている。さらに、採貝やウナギ養殖などの水産業も盛んであるが、近年、水産資源の回復・保護が課題となっている。

現在、基幹産業である自動車産業は、100年に一度とも言われる、産業構造の大きな変革期を迎えている。

将来にわたって、地域の産業の活力を維持・発展させていく上では、最先端技術の研究開発や次世代産業の育成などを通じて、モノづくり産業の拠点として世界をリードしていくことが必要となる。

### 交流基盤

西三河地域では、新東名高速道路を始めとする広域幹線道路ネットワークの整備が進んできており、東海道新幹線の三河安城駅や、物流・生産活動を支える工業港である衣浦港を擁している。一方、リニア中央新幹線開業を控える中、産業集積地である豊田市から名古屋駅への鉄道アクセスに課題がある。

モノづくり愛知を牽引する地域として、活発な産業活動等を支えるとともに、リニア中央新幹線の開業効果を地域に波及させていくための、広域交通基盤を充実していく必要がある。

このため、広域幹線道路ネットワークや衣浦港などの整備を着実に進めていくとともに、国内外との交流拠点へのアクセス性向上に向けた取組を進めていく必要がある。

## 自然環境

西三河地域では、山間地域を中心に土砂災害警戒区域が数多く指定されており土砂災害の危険性が高く、また、複数の河川が流れる市街地においては、局地的な豪雨により浸水被害が発生している。南海トラフ地震の被害予測では、海拔ゼロメートル地帯が広がる沿岸部を中心に、甚大な津波被害が見込まれている。

こうした地域特性を踏まえながら、激甚化していく風水害や南海トラフ地震への対策を進めるなど、安全・安心な地域づくりに取り組んでいく必要がある。

西三河地域は、南北に流れる矢作川を軸として、緑豊かな三河山、本県唯一の天然湖沼である油ヶ淵、海の恵み豊かな三河湾など、豊かな自然環境を有している。経済・社会・環境が調和した地域づくりに向けて、こうした自然環境の保全・回復を進めていく必要がある。また、次世代自動車や水素エネルギーの活用など、環境に関する積極的な取組が進められている地域として、こうした取組を一層進めていくことが求められる。

## 2 めざすべき将来像と地域づくりの方向性

西三河地域は、100年に一度の大変革を遂げる自動車産業を始め、あらゆる産業の活力があふれる豊かな地域であり続けることが求められる。さらに、その産業の活力により、愛知の発展を牽引する地域となることをめざす。

**自動車産業を中心とする産業の活力を  
地域経済や暮らしの豊かさに波及させながら、  
愛知の発展を牽引する地域**

- ① 性別等に関わらず全員が活躍できる暮らしやすい地域
- ② 基幹産業である自動車産業を始め、産業で世界をリードする地域
- ③ 広域交通ネットワークに支えられ、全国・世界との交流が活発な地域
- ④ 災害に強く、自然と調和した地域

### 3 地域づくりの方向性と主な政策

#### 1 性別等に関わらず全員が活躍できる暮らしやすい地域

##### ◆ バランスの取れた就労環境づくり

- 工業高校に男女共同参画やワークライフバランス等を学ぶ、生活コースを設置し、モノづくり企業等で活躍できる女性人材や男女共同参画を促進する人材を育成する。
- テレワークの普及・導入促進や、働き方改革の街頭啓発活動等を実施し、地域の中小企業等の働き方改革を促進する。
- 市町と連携して、就労・生きがいづくり、多世代交流に関するモデル事業を実施するなど、高齢者の社会参加を促進する。
- 中小企業向けに外国人雇用に関するセミナーを開催するとともに、定住外国人向けの就労支援の実施などにより、外国人雇用を促進する。

##### ◆ 次世代のグローバル人材・産業人材を育成する教育の推進

- 刈谷北高校に国際探究科を新設し、グローバル企業等との連携による教育活動に取り組むとともに、国際バカロレア (IB) ディプロマ・プログラムの趣旨を踏まえた先進的な教育課程の研究に取り組む。
- 岡崎北高校への理数科の設置などにより、モノづくり技術の研究者等となる理数系人材を育成する。
- 豊田工業高校等へのIT工学科や岡崎工業高校への環境科学科の設置を始め、工業高校に学科・コースを新設するとともに、「工業高校」を「工科高校」に改称し、科学的にモノづくりを理解し、技術革新にも対応できる若者の育成をめざす。
- 安城農林高校において、スマート農業設備を導入するとともに、安全・安心な食料の生産と供給に関する学習内容を取り入れた教育を実施し、海外市場を視野に入れた次世代の農業人材を育成する。

##### ◆ 障害のある人や外国人県民への支援体制等の充実

- 安城特別支援学校の教室不足の解消と岡崎特別支援学校への長時間通学の緩和を図るため、西尾市内に知的障害及び肢体不自由の両方に対応する特別支援学校を新設する。また、学習環境の改善等を図るため岡崎特別支援学校を県立農業大学校敷地内に移転する。さらに、三好特別支援学校の教室不足を解消するため、豊田市内への新設校設置に向けて、豊田市との協議を進める。
- 三河青い鳥医療療育センターを地域の拠点施設として、重症心身障害児者及び肢体不自由児に対する医療・療育支援の充実を図る。



- 多文化子育てサロンの開催による外国人親子が日本で安心して子育てできる環境整備や、地域日本語教育コーディネーターによる地域の日本語教室への指導・助言など、多文化共生社会づくりに向けた取組を推進する。

### ◆ 快適な暮らしを支える基盤整備

- 都市計画道路の名古屋岡崎線、安城一色線など、地域の基軸となる主要幹線道路ネットワークの充実を図る。
- 刈谷駅北地区、(仮称)三河豊田駅前地区、安城南明治第一地区、知立駅周辺地区など、鉄道駅を中心に、市街地再開発や土地区画整理等を進める。
- 安全性の確保と利便性の向上に向けたホームドア設置やホーム拡幅などJR刈谷駅における駅改良事業への支援、バス路線の維持、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進等の地元の取組への協力など、公共交通の確保・充実を図る。
- 愛知県緑化センター・愛知県昭和の森における民間活力の導入や、油ヶ淵水辺公園の整備など、魅力ある公園づくりを推進する。
- 自然を活かした大規模な児童総合遊園である愛知こどもの国において、地域と協働した取組を実施することにより、子どもの健全な育成を図る。

### ◆ 山間地域・離島の暮らしを支える取組

- 山間地域において、国道153号伊勢神改良など、地域内の拠点間や周辺都市をつなぎ、暮らしを支える主要幹線道路の整備を進める。
- 過疎バスなどの路線維持を図るとともに、携帯電話の不通話地域の解消など情報インフラの整備を進める。
- へき地診療所・へき地医療拠点病院への支援や、へき地医療機関における医師や看護師の確保などにより、山間地域・離島のへき地保健医療対策を推進するとともに、オンライン服薬指導の規制緩和等により、更なる医療の充実を図る。
- 愛知県交流居住センター等を中心とした都市住民と受入集落とのマッチングや、仕事(なりわい)づくりへの支援などにより、テレワークの普及・拡大などの動きも捉えながら、三河山間地域への移住・定住を促進する。また、三河の山里と関わりを持ち、ファン・サポーターとなる人(関係人口)を創出するための取組を推進する。
- 佐久島の魅力を情報発信するなど、離島に関心を持ち、ファン・サポーターとなる人(関係人口)を創出するための取組を推進する。

## 2 基幹産業である自動車産業を始め、産業で世界をリードする地域

### ◆自動車産業を始めとする産業のイノベーション促進

- 西尾次世代産業地区用地などの用地造成に取り組み、次世代自動車関連産業の振興を図る。
- 自動車産業の技術革新を支える拠点となる、豊田・岡崎地区の研究開発施設へのアクセス道路として、国道301号の整備などを推進する。
- 新技術の開発・実用化、新たなサービスの提供及び次世代産業の創出をめざす、産学行政連携による、知の拠点あいち重点研究プロジェクトを推進する。
- 水素ステーションの整備促進、次世代自動車の高度部材の開発支援など、次世代自動車関連産業の育成・振興を図る。
- あいちシンクロトン光センター、新エネルギー実証研究エリア、産業デザイントライアルコア、無人飛行ロボット実証実験場等における、実証実験の場の提供や、実証実験の実施などにより、次世代産業等の育成・振興を図る。
- 次世代を担う産業等の集積に向けて、企業立地を推進するとともに、企業ニーズ等を踏まえた新たな企業用地の開発を市町と連携して進める。

### ◆自動車関連産業や窯業等の産業振興、商店街の活性化

- あいち産業科学技術総合センター(本部、産業技術センター、三河窯業試験場)における技術支援等により、自動車関連産業や地場産業等の振興を図る。
- 岡崎高等技術専門校に3Dモデリングやロボットシステム等に関する訓練科を新設し、モノづくり人材の育成機能を強化して中小企業の人材確保を支援する。
- 市町や商店街組合が行う商店街の活性化に向けた取組を支援する。

## ◆農林水産業の生産力強化、持続可能な発展

- 農業総合試験場(水田利用研究室)においてスマート農業の研究開発・普及拡大に取り組むとともに、施設整備等への支援、農地の大区画化、農地の嵩上げによる排水改良などにより、農業の生産性向上、水田への高収益作物導入、農産物の品質確保を図る。
- 鳥獣被害防止対策を進めるとともに、捕獲したイノシシやニホンジカの肉を愛知産ジビエとして利用する取組を推進する。
- 畜産総合センター豚舎について、新たに施設を整備することにより、種豚の供給機能を高めるとともに、豚熱等の家畜疾病に対する防疫体制の強化を図る。
- 愛知県産木材の利用促進と合わせ、スマート林業や高性能林業機械の導入支援、エリートツリーに関する試験研究等を推進し、林業の振興を図る。
- アサリ漁業を支えるための漁場整備を推進するとともに、総合的なウナギ資源保護対策や、水産試験場(内水面漁業研究所)におけるウナギ人工種苗生産の研究開発を進めるなど、水産業の振興を図る。
- 農起業支援センター(西三河、豊田加茂)において、農業の担い手確保を推進する。
- 「一色産うなぎ」や「西尾の抹茶」などの特産品のPRとともに、6次産業化や農商工連携の取組を支援し、付加価値の高い新たな特産品の開発を進める。

### 3 広域交通ネットワークに支えられ、全国・世界との交流が活発な地域

#### ◆広域幹線道路ネットワークや衣浦港を始めとする広域交通基盤の強化

- 東西の広域的な人流・物流を支える新東名高速道路について、浜松いなさJCT～豊田東JCT間の6車線化の早期実現に向けた取組を推進する。
- 西三河地域の産業拠点と港湾等物流拠点を結ぶ物流の軸となる名豊道路や国道153号豊田北バイパス・国道155号豊田南バイパスの整備を促進するほか、都市計画道路の衣浦岡崎線、衣浦豊田線の整備を推進する。また、知多半島とのアクセス性を高める国道247号衣浦大橋の渋滞対策を推進する。
- 衣浦港において、増大するバルク貨物へ対応するための保管用地造成や船舶の大型化へ対応する岸壁の整備に取り組む。
- 名古屋三河道路における計画の早期具体化に向けた取組、名浜道路の現道活用による整備等を始めた、三河方面から知多半島・中部国際空港への交通の円滑化を図るとともに、西三河地域内における連携強化の基盤となる道路整備を推進する。
- 伊勢湾岸自動車道刈谷ハイウェイオアシスでの刈谷スマートインターチェンジ(仮称)、東名高速道路の岡崎阿知波スマートインターチェンジ(仮称)の整備を促進し、高速道路の利便性向上による地域の産業や観光の活性化及び周辺道路の渋滞緩和を図る。

#### ◆名古屋駅へのアクセス強化と東海道新幹線の利活用促進

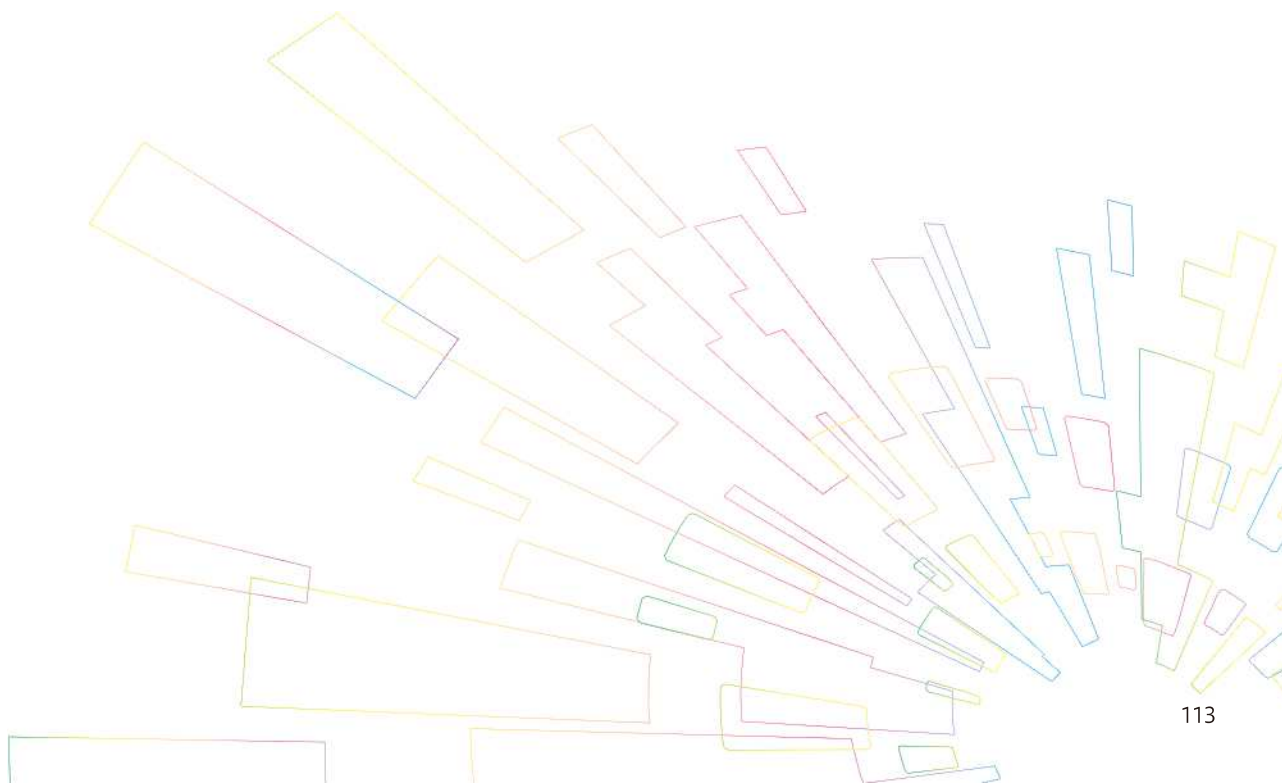
- 名鉄名古屋本線知立駅周辺の鉄道高架化や、鉄道の速達化に向けた調整等を推進し、名古屋駅へのアクセス強化を図る。
- 三河地域新幹線駅利用促進期成同盟会とともに、リニア中央新幹線の開業後における東海道新幹線の輸送形態の見直し(「のぞみ」中心から「ひかり、こだま」重視へ)の早期実現に向けた取組を推進する。加えて、この輸送形態の見直しの実現を見据え、三河安城駅の利便性の向上や東海道新幹線を活用した交流拡大策の検討を進める。

## ◆歴史や産業等を活かした観光振興

- 岡崎城、西尾城などの城郭・城址を活用した「お城観光」や、東海道や飯田街道といった歴史街道を活用した「街道観光」について、関係市町・団体と連携して取り組むなど、地域の歴史・文化を活用した観光客の誘致を図る。
- 自動車を中心とするモノづくり産業や、醸造業、窯業といった地場産業、和紙などの郷土工芸品等を活かした産業観光を推進する。
- 知立まつりを始め、愛知を代表する伝統文化である山車まつりの保存・継承を図るとともに、その魅力を地域一丸となって国内外に発信する。
- 全国トップクラスの生産量を誇る「西尾の抹茶」や、味噌やみりん、白醤油といった愛知のご当地グルメを支える醸造文化など、地域ならではの食文化を活用し観光客の誘致を図る。

## ◆大規模スポーツ大会の開催・招致・育成

- アジア競技大会開催に向けて、開催準備などを進めるとともに、大会を活用した地域活性化を促進する。
- FIA世界ラリー選手権ラリージャパンなどの全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成により、地域活性化を推進する。



## 4 災害に強く、自然と調和した地域

### ◆山間地域から平野部・沿岸部まで、地域特性を踏まえた地域強靱化

- 社会インフラや建築物の耐震性強化や津波対策、国営総合農地防災事業矢作川総合第二期地区等による基幹農業水利施設の耐震対策や、農業用の排水機場やため池などの農業水利施設の適正な管理、保全、改修等の農地防災対策、山間地域における孤立集落対策など、総合的な防災・減災対策を推進する。
- 災害時の救助活動や物資輸送などを支える緊急輸送道路について、国道301号、都市計画道路の衣浦岡崎線、衣浦豊田線の整備や、橋梁の耐震化、無電柱化などを推進し、緊急輸送道路ネットワークの構築を図る。
- 衣浦港の防災・減災機能強化を図るとともに、港湾BCPやフェーズ別高潮・暴風対応計画等に基づき、災害発生時の初期対応から早期復旧までの効果的な対策の推進を図る。
- 大規模災害時のゼロメートル地帯における浸水被害に備え、西尾市行用町に広域的な防災活動拠点を整備する。
- 市街地等の浸水被害の軽減を図るため、境川流域、猿渡川流域における総合的な治水対策を推進するとともに、矢作川水系などの河川改修や河川管理施設、海岸保全施設の地震津波対策、老朽化対策を進め、治水安全度の向上や施設の適切な維持管理を推進する。
- 豪雨の発生が増加傾向にある中、土砂災害などの発生リスクの増大を踏まえ、治山施設や土砂災害防止施設の整備及び老朽化対策を進め、土砂災害被害の軽減を図る。
- 愛知県災害対策本部西三河方面本部と各市町との連携強化や、西三河災害時相互応援協定の取組の支援など、自治体相互の連携による防災力の強化を図る。また、防災マップの作成や防災リーダーの育成等、市町が取り組む防災対策を支援するとともに、市町が行う消防団加入促進の取組を支援するなど、地域防災力の充実強化を図る。
- BCP策定マニュアルの提供や、啓発講座の開催などにより、大規模災害時等における中小企業・小規模事業者等の業務継続・再開に向けた取組を支援する。

## ◆再生可能エネルギーなど環境にやさしい社会システムの構築

- 衣浦東部浄化センター及び矢作川浄化センターにおける下水汚泥由来の再生可能エネルギーの活用や、農業水利施設を活用した小水力発電など、再生可能エネルギーの活用・普及を図る。
- 知多市・豊田市再エネ利用低炭素水素プロジェクト、豊田自動織機高浜工場再エネ利用低炭素水素プロジェクト、元町工場太陽光水電解水素ステーションを始め、低炭素水素認証制度に基づいた認証・情報発信により、低炭素水素サプライチェーンの事業化を推進する。
- 充電インフラや水素ステーションの整備を促進するなど、環境性能に優れたEV・PHV・FCVを始めとする次世代自動車の普及拡大に向けた取組を進める。

## ◆三河湾や油ヶ淵を始めとする自然環境の保全・回復

- 流域下水道(矢作川、境川、衣浦東部)における管渠や処理場の整備、農業集落排水処理施設の整備、干潟・浅場の造成などにより三河湾の水環境の改善を図るほか、三河湾環境再生パートナーシップ・クラブと連携し、三河湾環境再生プロジェクトを推進する。
- 矢作川水源基金による矢作川を軸とした上下流連携の取組を支援するとともに、本県唯一の天然湖沼である油ヶ淵の水質浄化に向けて、総合的な取組を推進する。
- 生態系ネットワーク協議会(西三河、西三河南部、東部丘陵)の取組を始め、地域との連携のもと、生態系ネットワーク形成に向けた取組を推進する。
- 作付けされていない水田等を利用したコスモスやソバの植栽による景観形成など、地域が共同で行う活動等を支援し、農地の保全や多面的機能の持続的発揮に向けた取組を推進する。
- 水源涵養や山地災害防止など、森林の有する公益的機能を発揮させるため、あいち森と緑づくり税などを活用し、山間地域の森林整備を推進する。

# 東三河地域

## 1 地域の特色と将来展望

### 人口構造

東三河地域は、県全体の約1割の人々が暮らす地域で、鉄道駅を中心として市街地が形成されている。県内の他地域に先行して人口減少が始まっており、山村地域である地域の北部では、高齢化率が特に高い状況にある。また、地域の南部を中心に、外国人県民が増加してきている。

現在、産学行政で策定した東三河振興ビジョンを始め、様々な主体が一丸となって、地域振興に向けての取組が行われている。また、山村地域では、地域おこし協力隊<sup>※</sup>など都市部からの移住・定住や、先端技術を活用して生活機能等の維持をめざす取組が行われている。

今後、地域全体で人口減少・高齢化が進むものと見込まれており、将来にわたり地域の活力を維持し、高めていくためには、暮らしやすいまちづくりや、山村地域の生活基盤の確保に取り組んでいくことはもとより、魅力ある地域資源を活かした交流人口・関係人口の拡大に取り組むことが必要である。

### 産業構造

東三河地域は、農商工のバランスのとれた産業構造を有しており、製造品出荷額等や農業産出額は、全国的にも有数の規模を誇る地域である。自動車関連を中心に多くの製造業が集積する上、渥美半島を中心として、野菜、花き、畜産などの全国トップクラスの農業地帯となっている。また、底びき網や採貝、アユ養殖、マス類養殖など水産業も盛んな地域であり、山間地域では、古くから植林が盛んで、豊富な森林資源を背景とした林業が行われている。

一方、若者の地域外への転出が顕著であり、今後、生産年齢人口の減少により、人材不足の深刻化が懸念される。地域産業の発展に向けては、新技術の導入による生産性の向上や、産業間や産学行政の連携力を活かしたイノベーションの創出が必要である。また、地域の将来を担う人材の育成・確保にも取り組む必要がある。

### 交流基盤

東三河地域は、新東名高速道路を始めとする広域幹線道路ネットワークの整備が進んできており、東海道新幹線の豊橋駅、貿易の重要な拠点である三河港といった、国内外との交流基盤を擁している。また、東三河地域には、豊かな自然に加え、旧東海道の面影を残す宿場町、奥三河の特色ある祭など、歴史や文化、伝統に培われた地域資源が豊富である。

地域の持続的な発展に向けては、遠州や南信州との交流の要となる中京大都市圏の東の拠点としての立地特性を活かしながら、地域外との交流を活発化する必要がある。

<sup>※</sup> 地域おこし協力隊：都市部から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。



このため、リニア中央新幹線の開業効果等を見据えて、三遠南信自動車道を始めとする広域交通基盤の充実に向けた取組を進めていくとともに、地域独自の魅力向上・発信に取り組み、スーパー・メガリージョンのセンターを担う本県に人を惹きつけるような独自の魅力を発揮していく必要がある。

## 自然環境

東三河地域では、市街地などで局地的な豪雨による浸水被害が発生しており、また、山間地域を中心に土砂災害警戒区域が指定されており土砂災害の危険性が高く、台風による倒木などにより道路の通行止めが発生している。さらに、豊川水系では、これまでたびたび濁水に見舞われている。南海トラフ地震の被害予測においては、外海に面する半島地域や海拔ゼロメートル地帯が広がる沿岸部を中心に、甚大な津波被害が見込まれている。

こうした地域特性を踏まえながら、激甚化していく風水害や南海トラフ地震などへの対策を進めるなど、安全・安心な地域づくりに取り組んでいく必要がある。

東三河地域では、北部に広がる森林や、豊川河口の六条潟、海の恵み豊かな三河湾、渥美半島の美しい海岸など、豊かな自然環境を有している。また、とりわけ当地域では、自然環境を活かしたアウトドアスポーツが、人を惹きつける観光資源として期待されており、経済・社会・環境が調和した地域づくりに向けて、自然環境の保全・回復を進めていく必要がある。

## 2 めざすべき将来像と地域づくりの方向性

東三河地域は、豊かな自然や特色ある文化を始めとする地域独自の魅力を発揮し、地域外の関係人口を拡大しながら、地域の活力を持続的に高めていくことが求められる。さらには、快適な暮らしや創造性ある産業と相まって、人を惹きつける地域となることをめざす。

**自然・文化に彩られた中で、  
快適な暮らしと創造性ある産業が営まれている、  
誰もが訪れたい・暮らしたい地域**

- 1 快適な暮らしを営む住民と、地域外人材との交流で活力あふれる地域
- 2 新しい技術を次々と取り入れながら、産業が発展していく地域
- 3 中京大都市圏「東の拠点」として、全国・世界とつながる魅力的な地域
- 4 災害に強く、自然と調和した地域

### 3 地域づくりの方向性と主な政策

#### 1 快適な暮らしを営む住民と、地域外人材との交流で活力あふれる地域

##### ◆次世代のグローバル人材を始め地域の将来を担う人材の育成に資する教育の推進

- あいちグローバルハイスクールに指定した時習館高校における取組の成果を共有し、国際的に活躍できるグローバル人材を育成する。
- 豊川工業高校へのロボット工学科や生活コースの設置を始め、学科・コースを新設するとともに、「工業高校」を「工科高校」に改称し、科学的にモノづくりを理解し、技術革新にも対応できる若者の育成をめざす。
- 渥美農業高校等において、あいちの産業担い手育成事業を実施し、農林水産業の将来を担う人材の育成・確保に取り組む。
- 山間地域や半島地域において連携型中高一貫教育を実施し、地域を支える人材を育成する。

##### ◆地域に暮らす人材の活躍促進

- テレワークの普及・導入促進や、働き方改革の街頭啓発活動等を実施し、地域の中小企業等の働き方改革を促進する。
- 市町村と連携して就労・生きがいづくり、多世代交流、移動支援に関するモデル事業を実施するなど、高齢者の社会参加を促進する。
- 中小企業の外国人雇用に関する理解を深めるとともに、定住外国人向けに就労支援を実施することにより、外国人雇用を促進する。

##### ◆関係機関の連携や関係人口の創出等による東三河振興

- 東三河地域の地方機関で構成する東三河県庁を中心に、地域振興施策を推進する。また、産学行政等が参画する東三河ビジョン協議会における重点的な施策の推進など、東三河地域の更なる振興を図る。
- 地元愛の醸成による若者の定着や、テレワークの普及拡大などの動きを捉えながら、市町村と連携した移住・定住を促す取組などを通じて、新しい人の流れを創出する。加えて、東三河のファン・サポーターとなる人(関係人口)の創出・拡大に向けた取組を推進する。
- 三遠南信地域の産学行政等で策定された第2次三遠南信地域連携ビジョンの推進を図り、様々な分野における交流・連携を深めていくとともに、三遠南信地域連携ビジョン推進会議に参画して三遠南信地域の課題解決のためのプラットフォームの形成を促進し、その取組を支援する。

##### ◆障害のある人や外国人県民への支援体制等の確保

- 豊橋特別支援学校の分教室である山嶺教室、潮風教室において、東三河の山間地域や渥美半島先端地域の生徒が住み慣れた地域での自立と社会参加ができるよう特別支援教育の充実を図る。

- 障害者福祉減税基金を活用して設置した民間法人による重症心身障害児者施設の信愛医療療育センターを通して、重症心身障害児者に対する医療・療育支援の充実を図る。
- 多文化子育てサロンの開催による外国人親子が日本で安心して子育てできる環境整備や、地域日本語教育コーディネーターによる地域の日本語教室への指導・助言など、多文化共生社会づくりに向けた取組を推進する。

#### ◆ 快適な暮らしを支える基盤整備

- 豊橋市からの「東三河1時間交通圏」の基軸となる国道151号、国道257号や主要地方道豊橋渥美線など、東三河縦貫軸を構成する主要幹線道路の整備を推進する。
- 地域内交通の円滑化に向け、国道151号宮下交差点の立体化及び国道259号、主要地方道東三河環状線の整備などの対策を推進する。
- 豊橋駅前大通二丁目地区第一種市街地再開発事業への支援など、中心市街地における賑わいづくりを図るとともに、豊橋駅、豊川駅、蒲郡駅といった地域内の主要駅を中心に、市街地再開発や土地区画整理等を進める。
- バス路線の維持や、JR飯田線、名鉄西尾・蒲郡線、豊鉄渥美線・市内線、鳥羽伊良湖航路等の利用促進等の地元の取組への協力など、公共交通の確保・充実を図る。
- 東三河ふるさと公園における公園施設の整備や民間活力の導入などにより、魅力ある公園づくりを推進する。

#### ◆ 山間地域の暮らしを支える取組

- 奥三河の山間地域において、国道473号や主要地方道長篠東栄線など、地域内の拠点間や、周辺都市とをつなぎ、暮らしを支える主要幹線道路の整備を進める。
- 過疎バスなどの路線維持を図るとともに、光ケーブルによる北設情報ネットワークの維持、携帯電話の不通話地域の解消など情報インフラの整備を進める。
- へき地診療所・へき地医療拠点病院への支援や、へき地医療機関における医師や看護師の確保などにより、山間地域のへき地保健医療対策を推進する。また、オンライン服薬指導の規制緩和等により、更なる医療の充実を図る。
- 愛知県交流居住センター等を中心とした都市住民と受入集落とのマッチングや、仕事(なりわい)づくりへの支援などにより、テレワークの普及拡大などの動きを捉えながら、三河山間地域への移住・定住を促進する。また、三河の山里と関わりを持ち、ファン・サポーターとなる人(関係人口)を創出するための取組を推進する。

## 2 新しい技術を次々と取り入れながら、産業が発展していく地域

### ◆産学行政での連携等による産業のイノベーション促進

- 地域の産学行政で構成されるプロジェクトチームにおいて、スタートアップ・エコシステム形成の気運醸成に取り組むとともに、農業・食などの東三河の強みを活かし、テーマ・分野別のサテライト支援拠点に関する検討を進める。
- 東三河地域における広域産業支援の中核機関である、(株)サイエンス・クリエイトとともに、産学行政連携、異業種連携や、新産業の創出支援に取り組む。
- 水素ステーションの整備促進、高度部材の開発支援など、次世代自動車関連産業の育成・振興を図る。
- ロボット、健康長寿、新エネルギー関連など、新産業として期待される次世代産業の振興に向けて、地域の各主体と連携した取組を進める。
- 次世代を担う産業等の集積に向けて、企業立地を推進するとともに、企業ニーズ等を踏まえた新たな企業用地の開発を市町村と連携して進める。

### ◆農商工連携や、地場産業の振興、商店街の活性化

- 全国有数の農水産物の生産地という強みを活かした新商品開発支援や6次産業化支援に取り組むとともに、これらを含めた特産品を地域の稼ぐ力につなげるため、食のブランド化と販路開拓を推進する。
- あいち産業科学技術総合センター三河繊維技術センターにおける技術支援等により、地場産業の振興を図る。
- 市町村や商店街組合が行う商店街の活性化に向けた取組を支援する。

### ◆若者人材確保に向けた支援

- 大都市圏からの若者の流入及び東三河以外出身の学生等の東三河への就職を促進するため、東三河地域で暮らし、働くことの魅力などの情報を提供することにより、企業の人材確保を支援する。

## ◆ 農林水産業の生産力強化、持続可能な発展

- 農業総合試験場(東三河農業研究所)においてスマート農業の研究開発・普及拡大に取り組むとともに、施設整備等への支援や、水田の汎用化・畑地化、用水路などの農業水利施設の整備・更新などにより、農業の生産性向上、水田への高収益作物導入、農産物の品質確保を図る。
- 鳥獣被害防止対策を進めるとともに、捕獲したイノシシやニホンジカの肉を愛知産ジビエとして利用する取組を推進する。
- 豚熱の感染拡大を防ぐため、渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会による野生イノシシの捕獲等を推進する。
- 愛知県産木材の利用促進と合わせ、スマート林業や高性能林業機械の導入支援、エリートツリーに関する試験研究等を推進し、林業の振興を図る。
- 漁場生産基盤の整備、全国有数のアサリ生産を支える六条潟の適切な利用、水産試験場(本場、内水面漁業研究所三河一宮指導所)における漁場環境に関する試験研究やマス類養殖技術の開発・普及など、水産業の振興を図る。
- 農起業支援センター(新城設楽、東三河、田原)における新規就農希望者への支援、森林・林業技術センターにおける林業技術者等の育成、漁業就業者確保育成センターにおける就業相談など、農林水産業の担い手確保を推進する。
- キャベツ、トマト、大葉などの「つまもの」、キクを始めとした花き類、次郎柿など東三河地域で生産される全国トップレベルの産出額を誇る農産物をPRし、知名度の向上を図る取組を推進する。

### 3 中京大都市圏「東の拠点」として、全国・世界とつながる魅力的な地域

#### ◆ 広域幹線道路ネットワークや三河港を始めとする広域交通基盤の強化

- 東西の広域的な人流・物流を支える新東名高速道路の6車線化の早期実現や、東三河、遠州、南信州地域間の広域連携の軸となる三遠南信自動車道の早期全線供用に向けた取組を推進する。
- 東名高速道路と、重要港湾である三河港との物流機能を強化し、観光エリア間の連携や災害時の救援活動等を支える浜松三ヶ日・豊橋道路(仮称)の早期実現に向け、国や静岡県、浜松市等と連携しながら取組を推進するとともに、東三河地域と三重県伊勢方面を結び、渥美半島の振興にも寄与する三遠伊勢連絡道路についても、国の動きを注視しつつ、将来を見据えた構想として取組を推進する。
- 名古屋港、衣浦港、三河港をつなぐ東西軸の交通基盤を強化するため、名豊道路の全線開通と、暫定2車線区間の4車線化を促進する。
- 東名高速道路の豊橋新城スマートインターチェンジ(仮称)の実現に向けた取組を促進するなど、高速道路へのアクセスを高めることにより、物流の効率化や産業の振興を図る。
- 三河港において、不足するモータープールの造成や岸壁及び埠頭間を結ぶ臨港道路の整備を進めるなど、機能強化を推進するとともに、国内外におけるポートセールスや優遇措置等により、三河港の利用を促進する。

#### ◆ リニア中央新幹線中間駅へのアクセス強化と東海道新幹線の利活用促進

- リニア中央新幹線開業により長野県・岐阜県に設置される中間駅へのアクセス強化に資する、三遠南信自動車道の早期全線供用に向けた取組や、国道257号の整備を推進する。
- 三河地域新幹線駅利用促進期成同盟会とともに、リニア中央新幹線の開業後における東海道新幹線の輸送形態の見直し(「のぞみ」中心から「ひかり、こだま」重視へ)の早期実現に向けた取組を推進する。加えて、この輸送形態の見直しの実現を見据え、豊橋駅の利便性の向上や東海道新幹線を活用した交流拡大策の検討を進める。

## ◆豊かな自然や、歴史・文化等を活かした観光振興

- アウトドアスポーツを中心とした東三河スポーツツーリズムの地域一丸となった推進や、東三河地域に多く立地している道の駅を拠点に、地域の多様な「食」を活かした誘客の促進などを始めとする地域資源を活かした観光振興を図る。
- 太平洋岸自転車道の整備を推進するとともに、国関係機関及び関係自治体で連携して、良好なサイクリング環境を活用した地域の活性化に取り組む。
- 吉田城、長篠城などの城郭・城址や、歴史街道である東海道を活用した「お城観光」「街道観光」や、奥三河の伝統文化「花祭」を活かした観光振興など、地域の歴史・文化を活用した観光客の誘致を図る。
- 三谷祭を始め、愛知を代表する伝統文化である山車まつりの保存・継承を図るとともに、その魅力を地域一丸となって国内外に発信する。
- 東三河のブランド力向上や、観光人材の育成、動画等を活用した効果的な情報発信を行い、新しい人の流れを創出する。
- JR飯田線を始めとする三遠南信地域の多様な地域資源を活かした広域観光の取組を推進する。

## ◆大規模スポーツ大会の開催・招致・育成

- アジア競技大会開催に向けて、開催準備などを進めるとともに、大会を活用した地域活性化を促進する。
- FIA世界ラリー選手権ラリージャパン、新城ラリー、奥三河パワートレイルといった全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成により、地域活性化を推進する。

## 4 災害に強く、自然と調和した地域

### ◆山間地域から沿岸部・半島地域まで、地域特性を踏まえた地域強靱化

- 社会インフラや建築物の耐震性強化や津波対策、豊川用水二期事業等による基幹的農業水利施設の耐震対策や、農業用の排水機場やため池などの農業水利施設の適正な管理、保全、改修等の農地防災対策、山間地域における孤立集落対策など、総合的な防災・減災対策を推進する。
- 災害時の救助活動や物資輸送などを支える緊急輸送道路について、国道420号や主要地方道豊橋渥美線の整備、橋梁の耐震化、無電柱化などを推進し、緊急輸送道路ネットワークの構築を図る。
- 三河港の防災・減災機能強化を図るとともに、港湾BCPやフェーズ別高潮・暴風対応計画等に基づき、災害発生時の初期対応から早期復旧までの効果的な対策の推進を図る。
- 大規模災害時のゼロメートル地帯における浸水被害に備え、東三河南部地域における広域的な防災活動拠点の整備に向けて、検討を進める。
- 市街地の浸水被害の軽減を図るため、柳生川の地下河川の整備を始め、豊川水系や遠州灘及び三河湾に注ぐ二級河川等の河川改修や河川管理施設、海岸保全施設の地震津波対策、老朽化対策を進め、治水安全度の向上や施設の適切な維持管理を推進する。
- 豪雨の発生が増加傾向にある中、土砂災害などの発生リスクの増大を踏まえ、治山施設や土砂災害防止施設の整備及び老朽化対策を進め、土砂災害被害の軽減を図る。
- 水資源を安定的・恒久的に確保することなどにより、豊川流域で繰り返されている渇水や水害から人々の暮らしを守る。あわせて、設楽ダム建設に伴う水源地域の生活再建、振興対策に取り組む。
- 愛知県災害対策本部の各方面本部(新城設楽、東三河)と各市町村との連携強化や、県境を越えた三遠南信災害時相互応援協定の取組の支援など、自治体相互の連携による防災力の強化を図る。また、防災マップの作成や防災リーダーの育成等、市町村が取り組む防災対策を支援するとともに、市町村が行う消防団加入促進の取組を支援するなど、地域防災力の充実強化を図る。
- BCP策定マニュアルの提供や、啓発講座の開催などにより、大規模災害時等における中小企業・小規模事業者等の業務継続・再開に向けた取組を支援する。



## ◆再生可能エネルギーなど環境にやさしい社会システムの構築

- 豊川浄化センターにおける下水汚泥由来の再生可能エネルギーの利活用、農業水利施設を活用した小水力発電、渥美半島におけるメガソーラー事業、東三河地域の公共施設等での太陽光発電など、再生可能エネルギーの活用・普及を図る。
- 充電インフラや水素ステーションの整備を促進するなど、環境性能に優れたEV・PHV・FCVを始めとする次世代自動車の普及拡大に向けた取組を進める。

## ◆三河湾を始めとする自然環境の保全・回復

- 豊川流域下水道における管渠や処理場の整備、農業集落排水処理施設の整備、干潟・浅場の造成などにより三河湾の水環境の改善を図るほか、三河湾環境再生パートナーシップ・クラブと連携し、三河湾環境再生プロジェクトを推進する。
- 地域環境リーダーや、いらごさららパーク自然観察サポーターなど、東三河地域の自然環境活動の中心となる人材の育成や地域への展開を推進する。
- 生態系ネットワーク協議会(新城設楽、東三河、渥美半島)の取組を始め、地域との連携のもと、生態系ネットワーク形成に向けた取組を推進する。
- キャベツ畑等から流入し排水路に堆積する土砂の除去や、鳥獣害防護柵の点検、補修など、地域が共同で行う活動等を支援し、農地の保全や多面的機能の持続的発揮に向けた取組を推進する。
- 水源涵養や山地災害防止など、森林の有する公益的機能を発揮させるため、あいち森と緑づくり税などを活用し、山間地域の森林整備を推進する。